

# クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー 「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」

## 2025年10月20日（月） - 10月23日（木）開催決定



東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」を2025年10月20日（月）から10月23日（木）の4日間、重要文化財である自由学園明日館にて開催いたします。

昨年実施した「だれもが文化でつながる国際会議2024」のテーマ「文化と居場所」を継承し、実践していく場として、今回は「居場所とわたし」をテーマとしました。国内の芸術文化事業に関わる実践者やアーティスト、研究者たちが、それぞれの「居場所とわたし」について対談する他、情報保障やアクセシビリティに関する実践例や考え方を紹介、また展示やミニトークなどで参加者のみなさんと共に多面的に学べる場を創出します。

### 「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」開催概要

- 会期：2025年10月20日（月）-10月23日（木）
- 会場：自由学園明日館 〒171-0021 東京都豊島区西池袋2丁目31-3
- 主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
- 入場料：無料（要来場登録）
- 使用言語：日本語、日本手話
- URL：<https://creativewell.rekibun.or.jp/creativewell-conference/2025.html>



《本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先》

だれもが文化でつながるオータムセッション2025広報事務局

担当：山本(090-9830-5403)・山下(080-4951-8730) E-MAIL：[press@cwt2025.com](mailto:press@cwt2025.com)

# 「居場所とわたし」について考える4日間 「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」

4日間のプログラムは、多様な実践例をめぐる議論から気づきを得る「セッション」、事業運営の場でいかにアクセシビリティや手法を学ぶ「セミナー」、東京都の取り組みや先進的なデバイスなどを紹介し、アート作品を通して各テーマについて考える「展示・ワークショップ」、参加者と登壇者が交流し、ネットワークを醸成する「ネットワーキング」の4つのセクションから構成されています。文化を通してもたらされる「居場所」とは？わたしたち一人ひとりが実践できることを学んでいきます。

## Session セッション

### “芸術文化活動を支える専門的知見と理念を話し合う場”

芸術文化にかかわる活動を行う実践者と研究者や、アーティストが登壇者となり、実例や経験を共有し、その背景にある理念を語り合う「セッション」。多様な実践例を知ること、それぞれの現場で役立つヒントや気づきを得る機会となることを目的としています。

#### 1日目：10月20日（月）15:30-17:30 オープニングセッション | 「生活圏」とアート

2025年のテーマ「居場所とわたし」を考える起点として、「生活圏」において、アートはいかに活用され、またどのように作用しているのかを議論します。人々の記憶や場の歴史を取り込んで作品を制作するコミュニティ・アートをベースに、異なるアプローチで世界と向き合う二人のアーティストと、理論と実践の両面を備えた社会学者の視点から、アートがつくる居場所について広く語り合います。



登壇者：  
**小泉 元宏**  
社会学者・  
文化政策研究者



登壇者：  
**中崎 透**  
美術家



登壇者：  
**宮永 愛子**  
美術家

モデレーター：  
**森 司**（アーツカウンシル東京 事業調整課長）

#### 4日目：10月23日（木）14:30-16:30 クロージングセッション | わたしの居場所—未来のあたりまえを考える

だれもが社会に参加できる「居場所」をつくる取り組みは、これまで以上に求められている社会活動です。新しい社会モデルを創出し、それを実現し、いつしかそれが「あたりまえ」になる日を思い描く。障害者の社会参加や学びの場を創出してきた教育者と、人々が協働する場をひらき、居場所をつくる活動を長年継続してきた芸術家の二人が、アートが他分野と協働することで切りひらく「あたりまえの居場所」の未来像を語ります。



登壇者：  
**石原 保志**  
筑波技術大学 学長



登壇者：  
**小山田 徹**  
芸術家、京都市立芸術大学 学長

モデレーター：  
**森 司**（アーツカウンシル東京 事業調整課長）

## 2日目：10月21日（火）

### 10:30-12:00 セッション1 | 文化的なケアの実践

ケアする側・される側という一方的な立ち位置ではなく、また専門家のみにも頼るのではなく、社会全体で担う双方向の営みを実践者とともに追求します。

登壇者：天野 未知（東京動物園協会 教育普及センター所長）

唐川 恵美子（文化環境設計士）

モデレーター：西原 珉（キュレーション、心理療法士）

### 15:30-17:00 セッション2 | アートの気配がある居場所

「アートの気配」が人々の心を動かし、交流を生み、豊かな居場所づくりへのきっかけになることがあります。それぞれ異なる立場からアートプロジェクトを企画してきた二人のディレクターと、主に依存症の方々の支援に携わるソーシャルワーカーであり、場を運営する立場から、福祉や医療などの現場におけるアートの存在の大切さを提案します。

登壇者：青木 彬（藝とディレクター、社会福祉士）

松浦 千恵（ソーシャルワーカー）

モデレーター：富塚 絵美（アートディレクター）

## 3日目：10月22日（水）

### 10:30-12:00 セッション3 | 更新された美術館の役割

美術館におけるインクルーシブ・プログラムは、障害の有無、年齢や国籍を超え、だれもが安心してアートと出会える場所になることをめざしています。垣根のないコミュニケーションの場を実現してきた二人の学芸員と、都立文化施設の社会共生担当統括とともに、更新された美術館の役割と可能性を探ります。

登壇者：大政 愛（はじまりの美術館 学芸員）

木内 真由美（長野県伊那文化会館 学芸主幹）

モデレーター：駒井 由理子（アーツカウンシル東京 事業調整担当課長）

### 15:30-17:00 セッション4 | 居場所の見つけ方

経験豊富な二人のアーティストの活動に刺激を受けつつ、多彩な顔をもち地域文化を創造してきたモデレーターとともに、あそびたのしむことを通じた、心地よい「居場所」の見つけ方について考えます。

登壇者：砂連尾 理（ダンサー、振付家）

松本 雅隆（ロバの音楽座主宰）

モデレーター：齋藤 紘良（作曲家、しぜんの国保育園理事長）

## 4日目：10月23日（木）

### 10:30-12:00 セッション5 | 世界と対話するための身体

ろう者や盲ろう者の身体感覚に基づき、世界と対話することについて考えます。盲ろう者の社会参加を探求してきた経験、ろう者のコミュニケーション方法に基づく家づくりの実践から、多様な身体感覚をもつ人々が、アイデンティティを確立し自らの力で社会と向き合う可能性を、美術教育の専門家とともに読み解きます。

登壇者：田畑 真由美（手話通訳士、社会福祉士）

和田 令子（コミュニケーター、調布市聴覚障害者協会理事）

モデレーター：郡司 明子（群馬大学共同教育学部 教授）

参加者が携わる分野の環境整備に役立つ、具体的な事例を発表する「セミナー」。事業の企画や運営の現場にいかせるアクセシビリティやプロジェクトの手法・知識を、その実践者や当事者から聞き、なぜ、それらが有効なのかをともに考えていく勉強会です。

### 2日目：10月21日（火）

#### 12:30-13:30 セミナー1 | アクセシブルなウェブデザインとは何か

アクセシビリティに配慮したウェブサイト制作の経験が豊富なウェブディレクターと、自身も視覚障害があり、企業や行政のウェブサイトの改善業務に従事してきたコンサルタントとの対話をヒントに、ウェブサイトを利用する「だれもが」の根本に立ち戻って考えます。

登壇者：伊敷 政英（アクセシビリティ・コンサルタント）  
萩原 俊矢（ウェブディレクター）

#### 13:00-14:30 セミナー2 | バリアフリー活弁士による鑑賞体験

実演者、見える世界と見えない世界をつなぐブラインドコミュニケーター、当事者でもあり自ら舞台に立ち活躍する俳優・ナレーターとの三者のトークから違いを明らかにしていきます。見える以上の感じ方を体験し、場の空気感も含めて楽しむことのできる音声ガイドの可能性を探ります。

登壇者：実演 檀 鼓太郎（バリアフリー活弁士）  
石井 健介（ブラインド・コミュニケーター）  
関場 理生（俳優、ナレーター）

#### 14:10-15:10 セミナー3 | 手話通訳の基本と理論の重要性

手話通訳育成やコーディネートの専門家と、幅広いメディアで活躍する手話エンターテイナーの対話をもとに、文化事業や会議への手話通訳の導入に心得ておくべき基本、専門的な内容や複雑な議論を正確に伝える手法、手話の言語構造やろう文化とのあり方、そして通訳者の倫理やコーディネートの役割などを学びます。

登壇者：飯泉 菜穂子（手話通訳士、手話通訳技能研修講師）  
那須 映里（役者、手話エンターテイナー）

### 3日目：10月22日（水）

#### 12:30-13:30 セミナー4 | 学習障害と支援教材

UDデジタル教科書体フォント開発者の事例を聞きつつ、知的障害のあるこどもたちの居場所づくりの主宰者が問いかけながら、それらのテクノロジーや支援教材が、こどもたちの学びの環境を改善し、社会とのつながりに果たす役割を語り合います。

登壇者：高田 裕美（書体デザイナー）  
聞き手：加藤 甫（写真家、Studio oowa 主宰）

#### 14:10-15:10 セミナー5 | カームダウンスペースをつくる

多くの文化施設の設計に携わる建築家と、当事者であり公認心理士として発達障害のある人々を支援している二人の対話から、発達障害への理解を深め、カームダウンスペースの必要性や、公共空間のみならず、イベント会場など多様な場面での役割について考えます。

登壇者：佐藤 慎也（日本大学理工学部建築学科 教授、八戸市美術館 館長）  
綿貫 愛子（NPO法人東京都自閉症協会 役員）



**11:00-12:00 セミナー6 | 日常をアートでデザインする**

東京都東村山市で、まちの人や事業者、自治体を巻き込みプロジェクトを展開してきたチームの編集ディレクターとデザイナー、東京都で事業を推進するプログラムオフィサーとのトークから、区市町村と連携し進めていくアプローチの方法を探り、今後の展望について話し合います。

登壇者：仲 幸蔵（編集者、ディレクター）

福田 忍（デザイナー、アートディレクター）

聞き手：佐藤李青（アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー）

**13:00-14:00 セミナー7 | 文化事業と評価**

協働事業や市民による活動に伴走し、プログラム開発や評価に携わる研究者がレクチャーを行い、東京藝術大学が実施する事業評価を担うプロジェクトマネージャーと意見を交わすことで、「評価」の目的を理解し、数値などの既存の基準に頼らず、価値を明らかにする評価のあり方を学びます。

登壇者：清水 潤子（武蔵野大学人間社会学部社会福祉学科 講師）

聞き手：渡辺 龍彦（編集者）

**Exhibition**  
展示

**Workshop**  
ワークショップ

**“居場所とわたしについて鑑賞・体験しながら知る場”**

展示では、都立文化施設の職員による各館の取り組みの紹介から、アクセシビリティ対応に活用できる先進デバイスの展示とデモンストレーション、他者との言葉のやり取りに限定しない「対話」がテーマとなるアート作品などの展示を予定しております。また各日様々なワークショップも予定しています。

出品予定者：

AKI INOMATA、小山田 徹、中崎 透、宮永愛子

**Networking**  
ネットワーキング

**“近い距離で参加者と登壇者がつながる場”**

ネットワーキングでは、都立文化施設社会共生担当や講演・セミナー登壇者、展示参加アーティスト、出展業者等が持ち回りで、より具体的な実践のプロセスを共有したり、参加者が具体的に説明を受けたいことなどを近距離で聴ける場を用意しています。

登壇予定者：

平塚 千穂子（シネマチュプキタバタ）、二瓶 剛（株式会社ONDO Lab.）

森 敦史（筑波技術大学研究員）、田畑 快仁（京都芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻）

※各プログラム内容は都合により変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

<登壇者のプロフィールなど詳細情報は公式ウェブサイトをご参照ください>

URL：<https://creativewell.rekibun.or.jp/creativewell-conference/2025.html>

**クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーについて**

芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決への貢献を目指し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組むプロジェクト。本プロジェクトでは、都立文化施設の情報アクセシビリティ環境を整備し、障害や年齢等を問わずあらゆる人が文化芸術を鑑賞するとともに、参加・創造するためのプログラムを実施しています。



だれもが文化でつながるプロジェクト

**～感動と共感が、東京を、未来を、変えていく。みんなでつなげるサポートの輪～**

オールウェルカムTOKYOは、芸術文化を中心に、アクセシビリティ向上に取り組むみなさまとともに、障害の有無や、言語・文化の違いを超えて、もっとだれもが楽しめる東京を目指すキャンペーンです。

【特設サイト】<https://awt.rekibun.or.jp/>

